

98.2.18. 朝日新聞

女性校長率

最高は高知県の15.6%

千葉の短大
教授が調査 新潟・北海道1.1%

公立学校の校長に就いている女性の割合は、都道府県によって最大十四・二倍の開きがあることが、日本橋女子短大（千葉県）の池木清教授（教育行政学）の調査で分かった。最高は高知県の一五・六％、最低は新潟県と北海道の一・一％。「女性の能力にこれほど地域差があるとは考えられず、都道府県教委の女性登用に対する姿勢がうかがえる」と池木教授は分析している。

文部省の一九九六年学校基本調査などから抽出して算出した。それによると、

小中高校の全校長に占める女性校長の割合は、高知県に続いて京都府の一・一％、東京都の一〇・六％が高かった。新潟県、北海道に続いて割合が低かったのは、熊本、鹿児島両県の一・三％だった。

小中高校別にみると、小中学校では高知県の三五・九％を最高に、京都府が二七・六％、富山県が二五・〇

％と高い。逆に北海道の一・九％、新潟県の三・四％が低かった。中学校では高知県の二〇・八％だけが二けた台。小数点第二位で四捨五入すると島根、鳥取、福井など九県でゼロになった。高校ではさらに割合が低くなり、トップの神奈川県で三・三％。香川、石川、岡山など二十九県がゼロだった。

98.2.15. 朝日新聞

女性校長3000人超す

10年前の5.3倍、8.5%に

公立学校

一九九七年春の公立学校の人事異動の結果、女性校長が三千二百四十六人と、初めて三千人を超え、全校長数に対する比率も八・五％に上がったことが文部省のまとめでわかった。女性校長比率は三年続けて約一割ずつ上昇しており、この調子なら、九九年春の異動後には一割を超えそうだ。

異動後の女性校長数は、小学校三千九百二人、中学校三百五十四人、高校三十八人、盲・ろう・養護学校五十二人で、前年度比四百人増。十年前の六百十三人、一・六％に比べると人数は五・三倍にまで増えた。

女性校長のうち、新たに登用されたのは小学校七百三十人、中学校六十六人、高校十人、盲・ろう・養護学校二十人の計八百三十六人で、新校長の二一・五％を占めた。

学校の種別では、総数、新校長数とも、九割が小学校。校長全体に占める女性の割合も小学校が二二％と二割を超えているのに対して、中学校は二・五％、高校は一％に過ぎない。女性教員の比率が中学校四〇％、高校二四％に比べて小学校六二％と、元々高いことのほか、校内暴力やいじめ問題に取り組む中学・高校の女性生徒指導主事が少ないことも背景にあると見られる。

異動後の女性教頭は、前年度比二百五十八人増の六千九十一人。全体に占める割合は一四・八％だった。